

茨城県カーネーション産地の積極的な部会活動

～「花保ち保証」や積極的な新品種の導入でブランド化に成功～

地宗紀良（東三河農林水産事務所田原農業改良普及課）

【平成27年11月16日掲載】

【要約】

茨城県の常陸野カーネーション組合は、輸入切り花や他産地との差別化を図るため、「13日間の花保ち保証」販売やオリジナル品種の開発等の取組を積極的にPRしてブランド力を高めている。県内産地においても積極的な部会活動による産地の特色を活かした産地振興が期待される。

1 はじめに

愛知県は、カーネーションの全国出荷量第2位の大産地であるが、輸入切り花の増加や生産資材の価格高騰等により農家経営は毎年厳しさを増している。この状況を打破するには新たな取組が求められる。常陸野カーネーション組合は全国に先駆けた「花保ち保証」販売や、オリジナル品種の開発など積極的な部会活動を行っている。県内産地における特色を活かした積極的な部会活動を支援するため、平成25年11月26日に先進事例調査を行ったので、その結果を報告する。

2 調査結果

(1) 常陸野カーネーション組合の概要

昭和49年に設立され、平成25年度は10戸、約2.5haでカーネーションを栽培している。このうち、6戸に後継者がおり、産地の継続性が確保されている。

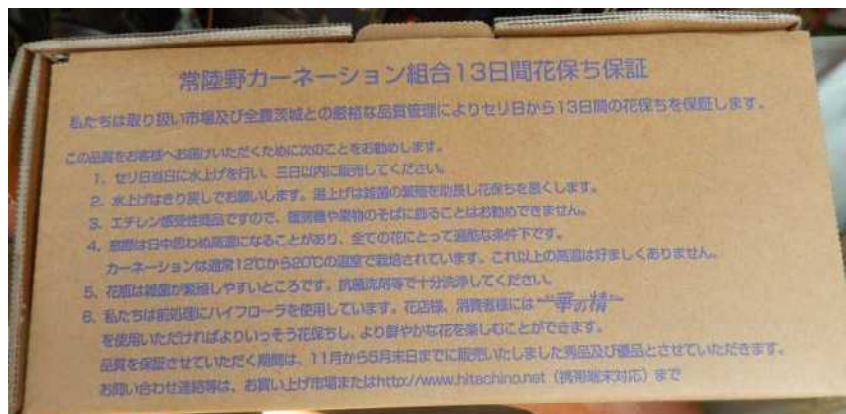
(2) 「花保ち保証」

11月から5月末日まで、セリ日から13日間日持ちを保証する「花保ち保証」制度を平成13年から導入しており、特に収穫後の管理に注意を払っている。

具体的な管理は、収穫後すぐに作業場へ運び、下葉を徐き、冷蔵庫内でSTS剤¹⁾を添加した水で水揚げして結束する。結束後も箱詰めまでの間、冷蔵庫内で水揚げしている。この組合では冷蔵庫での水揚げが基本となっているため、冷蔵庫の導入が組合加入の条件の一つとなっている。また、母の日前などの繁忙期でも規定どおりに水揚げを行っている。

また、定期的に日持ち試験を行い、日持ち程度の検査・確認を行っている。

出荷用段ボールには



段ボールに「花保ち保証」を表示

13日間の日持ち保証を表示し、高品質を保ったまま消費者に届くよう、小売店での水揚げ方法、適切な室温、後処理剤の利用等の最適な管理方法を記載している。

1) S T S (チオ硫酸銀錯体) 剤

S T S 剤は花卉の萎凋や離脱を促進する植物ホルモンの一種であるエチレンの作用を阻害する働きがあり、生産者が S T S 剤を処理することで日持ち性が向上する。

(3) 販売力の向上

○オリジナル品種の導入

この産地の特色を明確に打ち出すために、組合員自身が育種を行っており、これまでに10品種以上を育成した。また、茨城県や国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構花き研究所の育成品種も積極的に導入している。

○信頼関係構築のための実需者への配慮

実需者との信頼関係を深めるため、要望にはいち早く対応し、常に改善を心掛けている。一例として、出荷用段ボール箱にカーネーションのタイプの記載を加えた事例があげられる。カーネーションは品種数が多く、かつ毎年新品種が育成されており、名前だけではどのタイプの花なのかわからない。そこで、出荷用段ボール箱にスタンダードタイプか、スプレータイプかを記載するようにした結果、箱を開けずに中身がわかるようになった。

(4) 栽培技術向上に向けた取り組み

○立毛品評会

年1回立毛品評会を開催し、組合員がそれぞれが切り花品質を評価し合い、情報交換を行うことで組合全体の技術力を高め、品質向上を図っている。

○新技術の積極的検討

カーネーションでの事例はまだ少ないが、温湿度、炭酸ガス濃度等、栽培環境の最適化を図ることで品質・収量の向上に向けた試験を行っている。また、重油使用量削減に向けた電気暖房機の導入、薬剤抵抗性の獲得防止を図る天敵昆虫による害虫防除試験など、多くの新しい取組に挑戦している。



試験導入した炭酸ガス発生装置

3 最後に

常陸野カーネーション組合は、他産地より常に一步先を行く新たな取組に積極的に挑戦し、差別化を図ることを心がけている。産地の発展には常に前へ進む意欲が欠かせない。今回の調査で得られた知見を参考に、県内産地においても特色を活かした積極的な部会活動の振興を支援していきたい。